

11月に横浜で降雪が観測されたのは54年ぶりと言われるほど珍しい現象で、今秋の天候の不安定ぶりは常軌を逸していると感じます。慌ててマフラーや手袋を探したり、車での外出を諦めたりと大変でした。

17日(木)、私は市長から横浜文化賞を授与していただきました。全く予期しない出来事でした。16年前、2000年に赤い靴記念文化事業団が横浜文化賞奨励賞を受賞しましたが、今回は松永春個人として賞をいただきました。受賞理由の一つとして「赤い靴はいた女の子像」を建てたにあたり、発想から建立までリーダーとして活動したということがありました。エプロンを掛け、バスケットを持って教会の幼稚園に通っていた頃、アメリカ人の先生の帰国に際し、港に着いていた白い大きな汽船に乗せていただきました。私を乗せたままどこかへ行ってしまおうのではないかと恐怖を感じた時、外国人のお父さんとお母さんに挟まれタラップを上がってくる子供を見たのです。金髪碧眼で、正にお人形の姿に「赤い靴」の歌がオーバートラップしたのです。それ以来、この曲のメロディーは私の体を駆け巡るとともに、そのシーンが浮かんできます。

ある日、コペンハーゲンの人魚姫とブリュッセルの小僧の像の写真を目にし、由来を知った私は、赤い靴の少女の像を横浜に建て、世界三大メルヘン像にしたいと思ったのです。その頃から日本は神武景気や岩戸景気と呼ばれる好景気の坂を上り始めました。高度経済成長期の熱気の中、センチメンタルなものは受け止められなかったのでしょうか。やがてバブルがはじけ、人々が下を向き始めると、赤い靴像の件を話題にもしなかったメディアは各社こぞって取り上げ始めたのです。仲間も十数人になりましたが、皆、中年になり、私もこの年で乙女チックだと言われそうなことで旗を振るのは躊躇われました。「それじゃ発起人を集めよう」と皆に言い、高木東六先生の推薦文をつけて署名を集めたところ、わずかな月日で5310名分の署名が集まったのです。一方、「このようないい運動を誰が阻止しているのだ」と市議会でも議題に上り、ある時、ついに当時市長であった飛鳥田さんに呼ばれました。「これだけ盛り上げればいいだろう、どうか極上のものを作ってくれ」と言われましたが、こちらの決めた彫刻家に企画調整局からクレームがきました。著名な彫刻家に任せざるべきだと、大御所・佐藤忠良先生を推薦されました。しかし、貧者の一灯では費用が賄えませぬ。佐藤先生にお会いした時「あなたたちの推薦した山本正道君は私のグループで新進気鋭の作家だ。私は名を遂げ、今は経済的にも不自由してはいない。私は山本君を推したい」というお言葉をいただきました、決定しました。発起人は獅子奮迅の働きで、事務局長の平野さんはその頃から寝食忘れたの大活躍でした。かくして国内外の42992名の直接協力者の方々によって、1979年(昭和54年)11月11日あの子は誕生したのです。

その後、私達はこのエネルギーを地域の文化活動に向け、多くのコーラスグループ、ダンスグループなどを作るとともに、ミュージカル、ダンスフェスティバル、童謡の会などのイベントを催し、国際会議のオープニングなど数多くの出演の機会をいただきました。これらのグループが現在まで活躍していることも評価されたのです。また、「赤い靴」の中で「異人さんにつれられて行ったヤッタ」国であるアメリカの、横浜の姉妹都市・サンディエゴにも銅像を建てました。

チケット発売開始!
横浜市民ミュージカル 吉田新田 350周年記念公演
「おさん伝説～遙かなる時をこえて～」
2017年1月29日 11時・4時 2回公演
一般2,200円 高校生以下1,200円
関内ホール 大ホール お申し込みは事務局へ

第24回 中区合唱祭～虹のハーモニー～
赤い靴ジュニアコーラス 青隊&ATF 13:11～13:18
横浜☆男声合唱団 15:17～15:24
横浜市開港記念会館 入場無料



↑ ミュージカル「おさん伝説」出演者との写真
市団長と、横浜文化賞受賞後

受賞はとても光栄で嬉しいことです。皆様にも同志として喜んでいただけるという勝手な思いも敢えて持っています。与えられたスピーチの時間は1分以内ということでしたが、3分50秒も話してしまいました。話は先日、百歳で天寿を全うされた三笠宮様の事です。宮様は幼少の頃「童謡の宮さま」と呼ばれており、5・6歳の頃から詩をお書きになられていました。「おさとうは白くて甘くて美味しくて牛乳なんかに入れて飲む」「月夜の空を雁飛びて宮くん御殿でそれ見てる」。このような詩に「赤い靴」、「青い眼の人形」の作曲家・本居長世先生が曲を付け、レコードにしました。赤い靴の像が建った時、宮様は関心を示され、言語学者の金田一春彦先生に赤い靴の像について質問されたようです。私は金田一先生から、宮様がお見えになる会合に出席してほしいとの連絡をいただきました。当日は200人ももの学者や研究者が参加する学会でした。説明した後、休憩時に宮様にご挨拶に伺いました。宮様と妃殿下はすべてと立たれて微笑み「自分は赤い靴の歌が大好きなのです。あの旋律は全て日本人の心に突き刺さります。詩に横浜という地名があるだけで歌がハイカラになりますね。この歌は銅像のおかげでいつまでも歌い継がれるでしょう。あなた方は本当にいいことをされました、女の子を大事にしてください。」とおっしゃいました。その女の子が今月11日、37回目の誕生日を迎えたのです。雨の日も、風の日も、雪の日もじっと座って海を見ている彼女ですが、無機質な像であるはずなのに、時折表情が違って見えるのです。実に大勢の方に写真撮られ、歌を歌い、ほほを指で突かれたり、頭を撫でられたり、彼女の周りには一日中人が絶えないのです。一体どのくらいの方が対面したのだろうか、37年間で山下公園に来園した人数をトータルしてみると、約一億4千万人という結果になりました。毎日来る方、像を見なかった方が半数としても、約7千万人です。これからも毎日その数は増すでしょう。とこのような事を会場の皆様お話しさせていただきました。

2016・11・29 団長 松永春

今後のスケジュール

- 12/4(日) 第24回 中区合唱祭
横浜市開港記念会館 13:00～
ATF・青隊 13:11～13:18
横浜☆男声合唱団 15:17～15:24 入場無料
- 12/24(土)・25(日)
クリスマスキャロル
17時・19時(2回)
ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル 赤隊出演
どなたでもご覧になれます
- 12/31(土) ヨコハマメルヘン
23:45～翌0:15 山下公園
赤い靴はいた女の子像 前
除夜の汽笛を聴いて童謡を歌おう
どなたでもご参加いただけます
- 2017 1/29(土)
横浜市民ミュージカル
吉田新田 350周年記念公演
「おさん伝説
～遙かなる時を越えて～」
関内ホール・大ホール
11時・16時(2回公演)